

クオンティフェロン(QFT) 検査内容変更に関するご案内

謹啓 時下益々ご隆盛のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

さて、この度、標記項目におきまして検査内容を変更させて頂くことになりましたのでご案内申し上げます。なお、変更後は判定結果のうち「判定保留」が無くなります。

今後とも変わらぬご愛顧のほどよろしくお願いいたします。

敬 白

記

《検査項目》 〔4537〕 クオンティフェロン (QFT)

《変 更 日》 平成 31 年 4 月 1 日 (月) 受付分より

《変更内容》

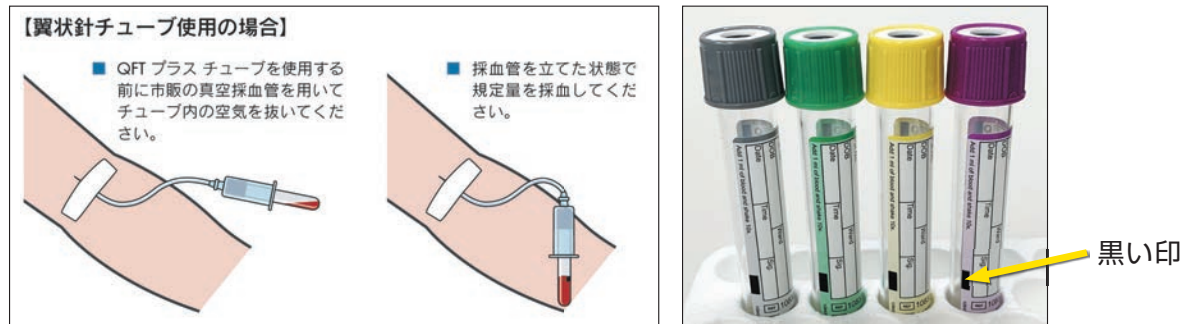
検査 コード	項目名称	変更箇所	変更後		変更前	
4537	クオンティフェロン (QFT)	採取容器	専用採血管 4 本		専用採血管 3 本	
		報告内容	5211 5212 5213 5214 4538	Nil 値 TB1 値 TB2 値 Mitogen 値 判定	4539 4541 4538	測定値 A 測定値 M 判定
		基準値	TB1 値 : 0.35IU/mL 未満 TB2 値 : 0.35IU/mL 未満 判 定 : (－)		測定値 A : 0.10IU/mL 未満 判 定 : (－)	

- 専用採血管が1本追加となり、CD4陽性T細胞に加えCD8陽性T細胞の応答を検出することが出来るようになりました。免疫機能低下例で検出感度の向上が期待されます。
- 従来での判定結果のうち「判定保留」が無くなりました。
- ◆ 採血方法および採血に関する注意事項は裏面をご参照ください。

採血方法

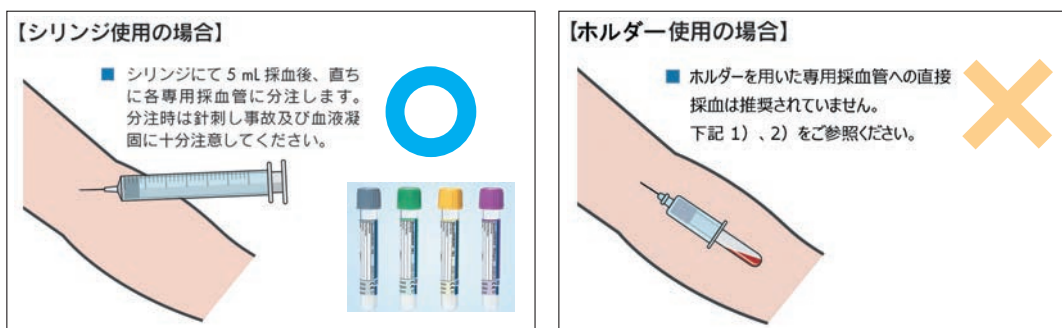
① 翼状針にて採血

- ・QFTプラスチューブを使用する前に市販の真空採血管を用いてチューブ内の空気を抜きます。
- ・各専用採血管を立てた状態で黒い印の範囲(0.8~1.2mL)まで目視で採血を行います。



② シリンジ採血後、専用採血管(4本)に分注

- ・シリンジにて5mL採血後、直ちに各専用採血管の黒い印の範囲(0.8~1.2mL)まで分注します。
- ・分注時は針刺し事故及び血液凝固に十分注意し、注射針とゴム栓を外してシリンジからQFTプラスチューブへ泡立てないように血液を分注します。
- ・分注後、同じゴム栓をQFTプラスチューブに再装着し混合操作を行います。



③ ヘパリンLiによる1本採血管での採血

- ・ヘパリンLiによる1本採血管のままでの受託はできませんのでご了承ください。
- 1本採取した場合は上記②に準じ、必ず各専用採血管に分注してからご提出ください。

採血に関する注意事項

- 1) ホルダーを用いた専用採血管への直接採血では採血管が斜めになり、適切な採血量で止めるタイミングが計りづらく、採血量が過剰、あるいは過小になる可能性がありますので、採血量が確認しやすい翼状針もしくはシリンジにて採血をしてください。
- 2) 海外と日本では採血方法が異なるため(日本では駆血帯を採血終了までつけたまま)、採血量が多くなる傾向があります。そのため、いままでのQFT-3G用の専用採血管は日本用のみ減圧度にて調整していました。QFTプラスでは、海外と同一の採血管を使用することとなりましたので、いままでと同様の方法で採血した場合、採血量が多くなり規定量の範囲を超えてしまう可能性があります。
- 3) QFTプラスチューブが室内温度($22\pm 5^{\circ}\text{C}$)に戻っていることを確認してください。温度により圧力が変化し、QFTプラスチューブ内の内容物が患者に逆流するおそれがあります。また、採血時の温度が高い場合、QFTプラスチューブの分離剤が軟化し、分離剤の成分と血液が混ざり誤った結果となるおそれがあります。
- 4) 採血時にQFTプラスチューブの位置が上下に動くことにより、チューブ内圧と静脈圧の関係からQFTプラスチューブ内の内容物が患者に逆流するおそれがありますので動かさないようにしてください。
- 5) 血液が採取されたQFTプラスチューブを上下に5秒間又は10回振って混合し、内表面全体が血液で覆われていることを確認してください。QFTプラスチューブを強く振りすぎると分離剤の成分が血液と混ざり、誤った結果になるおそれがあります。
- 6) 採血は特定の順序で行う必要はありませんが、通常はQFT Nilチューブ、QFT TB1チューブ、QFT TB2チューブ、QFT Mitogenチューブの順序で行います。
- 7) QFTプラスチューブの使用期限が切れていないことを確認してください。期限切れの場合、判定結果に影響が出る可能性があります。